

3月議会での私の一般質問

○久万清流米が守れる町内河川の水質検査を!!

(問)久万高原町のセールスポイントはきれいな空気と水だと思う。農家にとってはきれいな水は必要不可欠だ。その水が清流米やトマト、ピーマン等を育ててきた。

近年、気候変動にみられる降雨量の増大や、被害の報道がされている。盛土や事業所からの排水が町内の河川の水質を劣化させることがないか心配している。町として水質検査を行う必要があるのではないか。

(町長)町内の河川では14地点で毎年一回、生活環境の保全に関する項目について水質検査をしているが、結果は良好だ。水質保全是町民の生活にも農業にも重要であり、検査結果を注視したい。

残土処分場等の特定事業所については、県の土砂条例に基づいて6ヶ月ごとに事業者が(調整池からの放流口で)水質検査を行い、問題があれば県が監視指導を行うことになっている。

(問)久万川の水は、仁淀川となって高知県民の飲み水に使われている。上流に位置する久万高原町での水質検査は意味のあるものなので、検査の内容や結果を広報で町民に知らせてほしい。

先日、議会の全員協議会で、久万高原町西明神で「採石跡地盛土復旧緑化工事」が開始されようとしていることが報告された。埋立てに使われるのは外部の建設残土と聞いている。県の土砂条例による検査指示からみても残土は簡単には安全だとはいえない。ここからの排水は久万川に流れ込む。他にも残土処分、産業廃棄物の中間処理場もあり、ここからの排水も久万川に流れ込む。久万川の水はかなり多くの田畑に引き込まれている。農家の人たちは自分たちの作る清流米や野菜が安全でおいしいと評価されているからこそ誇りをもって作っている。仮にも有害な物質が検出されて風評被害を受けることがないよう、安心して農業に励めるように、水質検査は業者任せにせず、町として取り組むことが必要だと思う。町民を守るのは町の責任だ。

(農業戦略課長)本町の農産物は農家の努力により化学肥料の使用を減らし、県からエコえひめの指定を受けている。消費者から、おいしく、安心、安全と信頼されるブランドだ。JAなどに確認したが、県下で独自に水質検査をしている自治体は

ない。全国の事例も確認し、関係機関と連携し研究していきたい。

(問)建造物を壊した時に出るものは残土と廃棄物に分けられるが、残土に比べて廃棄物の処理費用が非常に高いので、残土に廃棄物を混ぜて処理業者に出されることが増えていると聞く。地方公共団体の調査を整理したものとすると、残土置場から検出されたものとして、六価クロム、水銀、ヒ素、フッ素、鉛などが報告されている。これらは水に溶けて、農作物を通して体内に蓄積し、健康被害をもたらしたものもある。

健康を害する物質を検出し、風評被害を未然に防ぐために、町でやられている水質検査に少なくともカドミウム、水銀、鉛、六価クロム、ヒ素などが検出できる項目を増やすべきだと考える。川から田畑への取水口付近で検査を行い、水質変化をつかむため、新たに事業所が残土を入れる場合は、入れる前からの水質検査が望ましい。

ブランドを守ることを表明している町長として、今述べた水質検査の実施をどう思われるか。

(町長)河川の水質検査は法令に則って行っており、問題はない。今後共心配はしていないが、河川の汚染には目を配り、町民が安心して暮らせるよう、安心して農業に取り組まれるよう、環境の保全には十分に留意したい。

おわりに

町が例年行っている水質検査の項目は、生活排水や工場排水による汚れを調べるもので、残土や産業廃棄物に含まれ、健康被害を起こす物質を検出できる項目はありません。

すでに行っている検査項目に有害物質を検出できる検査項目を増やすことは可能ではないでしょうか。ぜひ、町民の立場に立った水質検査の実施を求めます。

国や他の市町村に合わせるのではなく、地方自治の精神にのっとり、町の判断で行うべきだと考えます。



(仁淀川下流)